

1. 評価報告概要表

作成日 平成19年11月30日

【評価実施概要】

事業所番号	4071400651		
法人名	特定非営利活動法人安住		
事業所名	グループホーム安住		
所在地 (電話番号)	福岡市早良区城西3丁目13番24号 (電話) 092-845-6037		

評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡市博多区半道橋2-2-51		
訪問調査日	平成19年8月1日	評価確定日	平成19年12月21日

【情報提供票より】平成19年7月20日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年7月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	12 人	常勤6人 非常勤5人	常勤換算7.87人

(2) 建物概要

建物形態	併設 / 単独	新築 / 改築
建物構造	木造	2階建ての1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	26,300 ~ 31,300 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有() 円		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,400 円	

(4) 利用者の概要(7月20日現在)

利用者人数	名	男性	2名	6名		
要介護1	0名	要介護2	3名			
要介護3	2名	要介護4	3名			
要介護5	0名	要支援2	0名			
年齢	平均	85.5歳	最低	80歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	城谷内科 松口整形外科 やまの歯科
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は街中に立地し、学生寮を改修したグループホームである。建物は決して広くは無いが、寮の雰囲気を残し家庭的であり、入居者が快適に暮らせるよう創意工夫がみられる。道路の横の掲示板には地域に向けた情報を発信している。管理者は、高齢者介護への思いが強く職員の接遇や人権学習・研修に熱心に取り組んでおり職員は「明るく元気に「穏やかに」を理念に入居者のペースで一日を暮らせるように支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	理念を構築がなされていない。・理念を明文化し日々の生活の中で、実践し職員と話し合う機会を設けている。居間の手すりの取り付けの位置の改善・手すりの取り付けは行っている。入浴の時間を入居者の希望に答える体制づくり・変更して試みているが、状態変化などがあり昼間の時間に行っている。地域との連携づくり・交流は深めているが、具体的な協力体制や支援活動までには至っていない。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員に自己評価票の内容を確認してもらい意見を聞き自己評価に反映している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議の開催が定期的に行われず、事業所の発展に繋がる内容までには至っていない。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法 運営への反映(関連項目:外部8,9)
	日頃の生活の様子や状態の報告は、家族が来訪時に説明したり月1回請求書と共に便りを同封し報告をしている。要望は面会時に聞くようにしているが、十分ではないので、今後家族会の開催を予定している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会や自治会に入りお祭りや運動会に参加している。近隣の民家や散歩に出かける途中の方々と声をかけあうなど交流ができている。近所にマンションの建設前に説明会に職員が参加したりし、地域の方と顔なじみになるよう心がけている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容 実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者の一人ひとりのペースを大切にしたいという思いから「明るく元気に「穏やかに」という理念が構築されている。		平成18年度にグループホームの基本方針は「家庭的な環境の下で」より「家庭的な環境と地域住民との交流の下で」に改められ、より地域との関係性が重要視されるようになった。これまでの理念に加え、より地域密着型サービスとしての役割をより意識した理念を構築することが望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念については、ミーティング時に話し合っている。入居者に対する接し方は、理念に沿ってケアを行っている。		
2.地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会・町内会に入り運動会やどんたく祭りに参加している。隣接している民家との付き合いは、気軽に声かけあい、立ち寄れる場となっている。散歩の途中、近所の方から声かけてもらって交流している。又、近隣にマンションが建設される前の説明会には、管理者と職員が地域住民として参加している。事業所横の掲示板を利用して情報を発信している。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミーティング時に職員全員で意見を出し合い話し合いをしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2月に行なわれている。メンバーは町内会・職員・ボランティア等で構成されている。市担当職員へ参加依頼はしていない。		現在のメンバーの他に地域包括支援センターや市の担当者に参加してもらい、幅広い立場の人々と会議をひらくことで地域の理解と支援を得ることが出来る。市の担当職員への参加をお願いすると同時に、定期的開催することが望まれる。

グループホーム 安住

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容 実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者らと運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	問題発生時に市担当職員に相談している。		普段から市担当職員との連携を図り、事業所の性質や問題解決に向けて入居者の特徴を周知していただく必要がある。事業所のパンフレットや便りを持参するなどし連携を深めることが望まれる。
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員は管理者より個別に地域権利擁護事業や成年後見制度について研修を受けており、内容は理解している。また、玄関横の掲示板にパンフレットを設置し、地域の方が持っていかれるよう工夫をしている。		
4.理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日頃の生活の様子や状態の報告は、家族が来訪時に説明したり、請求書と共に便りと同封している。金銭管理は立替で行い、個別ノードに領収書を貼り、希望される家族には渡したり送付したりしている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会時に職員が面談して要望を聞き取るようにしている。家族会の結成は予定しているが、開催時期や参加者は不明である。		早急に家族会の開催を行い、要望などを出せる場として活用し、事業所の質の向上につながるよう期待したい。
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者の認知症の度合いが高く、理解力が乏しいことや興奮などのダメージが予測されることで、職員の退職や休職の説明は行なっていないが、新入職員に対して日勤時には人員を増やす、夜勤は補助的に回数を重ねることで馴染みの関係を築くようにしている。		

グループホーム 安住

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容 実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたっては性別や年齢で差別することは無い。管理者は入居者の介護、生活の質の向上に貢献できる人材であることを最優先し、入居者を介護する熱意や接遇などを重視し採用している。		
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者と職員が個別的に勉強会を設けるとともに、人権に関する資料を準備し、いつでも閲覧・持ち帰り出来るようになっている。		
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員が研修に参加できるようにしている。参加者はミーティング時に報告し資料は閲覧できるようにしている。ミーティングの記載は行なわれていない。		職員の常勤・非常勤に関わらず、その人の経験年数・認知症介護の理解や習熟度に応じた事業所としての研修計画が必要となる。外部研修・内部研修を問わず、その人の段階に応じた研修を年間計画の中に位置づけ、受講することが望まれる。
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通して、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加しブロック研修や他事業所との交換研修・人事交流を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容 実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居依頼があれば3日間お試し入所を行なっている。その間、家族にも訪問していただくように促している。		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり 支えあう関係を築いている	毎日の生活の中で、本人の希望を伺いながら生活している。意思が確認できない方や、悲しみによりダメージが予測される場合などは家族に確認している。又、職員は入居者の職業歴を把握しそれを生かした分野で能力が発揮できるようにしている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中での会話や見守り 表情で本人の希望や意向をくみ取るようにしている。本人の意向が無い場合は家族に確認するようにしている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入所時に本人および家族より 生活歴や職業歴・嗜好等の聞き取りを行い記録をしている。高度の認知症の方が多く、意思の確認が本人より行うことが難しい中、職員は日頃の表情や行動などから何が希望なのかを把握するようにし、それを介護計画に反映するようにしている。また、計画の評価および見直しについては職員間で検討され次ぎの介護計画に活かされている。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的な見直しが行なわれている。状態変化時にはカンファレンスを行い、関係者と話し合い計画の変更を行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容 実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	近隣の高齢者のショートステイ依頼があるが、空きが無く利用できない場合は、他事業所を紹介している。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医との連携は診療情報提供書を交わしながら受診の支援をしている。家族の通院介助が不可能な場合は職員が行っている。その場合は、家族に病状や検査の結果を説明している。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人の希望を重視し、家族と話し合い医師との連携をとりながら支援をしている。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の人格、尊厳に対する勉強会を開催したりミーティングにて常日頃話しをしている。個人情報の保護や守秘義務に関しては全員理解しているが、個人ファイルの保管場所がカーテンで覆う程度となっている。		介護サービスという対人サービスに携わる者として個人情報の漏洩防止やプライバシーの保護が責務となる。個人ファイル保管場所に、施錠付きのキャビネットを準備し個人情報の漏洩防止を徹底するように期待したい。
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や散歩の途中での喫茶店への寄り道、町内行事への参加など入居者一人ひとりの状態を考慮しながら、ペースに合わせ対応をしている。		

グループホーム 安住

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容 実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立 調理 配膳 後片付けの作業は職員が行なっているが、朝食準備時に入居者が手伝うことがある。職員も同じテーブルで、見守り介助しながら食事をとっている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回と決まっているが、時間帯は午前中から入浴することが出来る。ただ、入居者の希望の時間帯に入浴できるわけではない。	○	本人の生活習慣やその時々希望をふまえて入浴することにより安心や満足、より安全な入浴、体調の改善、本人の力の発揮などを図ることができる。極力、本人の希望に添った入浴支援を行なうことが望まれる。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り切りや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ケーキ職人 社長 教職など入居者の職歴を活かせるようにしている。毎日の日課に朝食の手伝いや分からない漢字があれば教えてもらうなど得意分野を発揮できるようにしている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員は外出を促し散歩や買い物や喫茶店に出掛けている。玄関に段差があり車椅子の方の外出に苦労が多いので、スロープの設置を検討している。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており 鍵をかけないケアに取り組んでいる	帰宅願望のある利用者がおられる為、通常玄関は施錠されている。この利用者に対して職員は外出の動機や対応法を充分理解、職員同士情報の共有を行い対応を行っているが、玄関の外は公道で自動車の往来が多く、危険回避の為やむを得ず施錠を行っている。今後、家族会開催し、他の家族にも理解をしてもらう予定としている。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう動きかけている	消防署に消火訓練 火災の基礎知識の講義を依頼し受けている。緊急通報装置は2箇所設置され電磁調理器に交換している。火災に対する対策は行われているが、夜間想定や地域住民の参加による避難訓練が行われていない。		昼夜を問わず、職員の災害全般に対する意識を強め入居者の安全確保を第一に考え、職員のみでの対応では限界があることを認識し、日頃から地域住民にも避難訓練に参加を促されるように期待したい。

グループホーム 安住

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容 実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事の栄養摂取カロリーは職員である栄養士が計算している。食事時間以外の水分が摂取できるようお茶の時間を設けており水分摂取量は大まかに把握している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないよう配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	寮を改修しており狭いながら生活ができるよう工夫をしている。玄関には季節の花や野菜など飾ったり季節の行事に関する飾り付けなどを季節感を取り入れている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、職員が作成したものや小物類は置いてあるが、本人の馴染みの物や生活感を感じさせる物が少ない。	○	自宅との違いによる不安やダメージを最小とするため、また馴染みの物をいかして居室でその人らしく生活できるように入居時に本人や家族に相談し馴染みの家具や調度、使い慣れたものを極力置いていただくことが望まれる。